

## 足元で一服、横バイ

7月の全産業合計の業況DIは、▼16・1と、前月から▼1・6ポイントの悪化。卸売業を中心に運送費の増加を価格転嫁できないとの声が多く寄せられたほか、人手不足の影響や消費者の節約志向、さらには九州等での大雨の影響により、サービス業、小売業の業況感が悪化した。他方、電子部品、自動車関連の好調な生産や、建設・設備投資の堅調な動きに加え、インバウンドを含めた観光需要は底堅く推移している。中小企業の景況感は総じて持ち直しに向けた基調が続いているものの、足元で一服感がみられる。

業種別では、建設業は改善。都市部を中心とした民間工事のほか、公共工事の増加を指摘する声が多く聞かれた。製造業は、ほぼ横ばい。電子部品や自動車関連に加え、設備投資の持ち直しから機械関連の生産・輸出も全体を押し上げた。他方、鉄鋼などの原材料費や運送費の上昇を指摘する声が多く寄せられている。

卸売業は悪化。運送費上昇分の価格転嫁が難航しているとの声が幅広く聞かれたほか、衣料品の販売不振や、水産・畜産物の価格上昇を指摘す

る声があった。小売業は消費者の節約志向が続く中、地域により猛暑や大雨から来客数が減少したとの声が多く悪化。化粧品などの好調なインバウンド需要や、夏のセールによる売上増加を指摘する声も聞かれた。サービス業は悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。観光関連業や飲料などの出荷が増加した運送業、受注が好調なソフトウェアなどの関連業種から、人手不足を訴える声が強い。

先行きについては、先行き見通しDIが▼15・5(今月比+0・6ポイント)とほぼ横ばいを見込む。輸出や設備投資の堅調な推移、インバウンドを含めた夏の観光需要や飲食料品・日用品を中心とした夏物商品の消費の拡大に期待する声聞かれる。他方、人手不足の影響拡大に加え、消費者の節約志向、運送費・原材料費の上昇分の価格転嫁など、先行きへの懸念材料を指摘する声も多く、中小企業の業況感は横ばい圏内で推移する見通し。

(当所を含む全国432会議所の3,530の企業にヒヤリング)